

会館だより

2012年 5月号 第275号



公益財団法人 日中友好会館

「会館だより」5月号の内容

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・日中友好会館主催展
「墨・劇—水墨で描く中国伝統劇
劉海粟美術館所蔵品展／
同時開催：李文培戯劇人物画新作展」

《日中友好後楽会》

- ・中国旅行
- ・交流バスハイク
- ・後楽会会員向け講座のご案内
中国気功講座 中国水墨画講座

活動記録

- ・日中大学生観桜会
- ・千代田区日中友好協会との花見交流会
- ・平成23年度日中次世代幹部交流訪日団
第2陣が来日
「金融」をテーマに講義・視察に参加
- ・平成23年度日本高校生訪中代表団
第4陣が訪中
北京・四川省（成都）・上海で交流

附録

- ・日中国民交流友好年によせて
—「草の根活動を日中共同で展開」
- ・日中を結ぶ蘭

会館行事と人の動き

表紙

『戯劇人物』 関良 作
(水墨画 1970年代 50×46cm)

催事の詳細は、本誌2ページの「行事案内」
をご覧ください。

行事案内

日中友好会館美術館

- ◆ 日中友好会館主催展
「墨・劇—水墨で描く中国伝統劇
劉海粟美術館所蔵品展／
同時開催：李文培戯劇人物画新作展」



「霸王別姫」関良 1970年代

会期：5月12日(土)～5月27日(日)
月曜休館

時間：10時～17時

※最終日は15:00まで

入場料：無料

主催：日中友好会館、国立劉海粟美術館

協力：上海東方青少年国際文化交流中心、
(社)日中文化スポーツ協会

後援：中華人民共和国駐日本国大使館、(公)
社日中友好協会、日本国際貿易促進
協会、日本中国文化交流協会、日中
友好議員連盟、(一助)日中経済協会、
(社)日中協会、東京中国文化センター

開幕式：5月11日(金) 15:00より

※主催団体の国立劉海粟美術館館長をはじめとする代表团と、同時開催展出品画家李文培氏が出席予定。開幕式終了後、展覧会場にて劉海粟美術館館員による作品解説有り、参加自由(約20～30分)。



「蛤蟆翁」丁立人 1994年

展示内容：

上海にある国立劉海粟美術館と上海東方青少年国際文化交流中心の多大な協力を得て、今回は貴重な収蔵品から、関良、林風眠、程十髮、ほか近現代の著名画家たちの中国伝統劇を題材にした水墨画作品約45点が来日します。またその同時開催展として、日本で活躍される著名画家李文培先生の戯劇人物画作品を展示します。戯劇人物をテーマに描く水墨画の世界をご堪能ください。開幕式・作品解説への参加は自由ですのでどうぞお立ち寄りください。

【問合せ】文化事業部

電話：03-3815-5085

メールアドレス：bunka@jcfcc.or.jp



「三岔口」李文培 2012年

日中友好後楽会

◆中国旅行

今年の中国旅行は、下記の日程で参加者募集をしております。浙江省は気候が温暖で見どころも多いところです。上海から舟山諸島（普陀山）まで新しい大橋と高速がつながり、上海から交通の便が非常によくなりました。過去に訪れたことがある方も、新鮮感があると思いますのでぜひご参加ください。お申込締切は5月7日となっておりますが、参加人数に余裕がある場合は、引き続きお申込みを受付けておりますので、ご検討中の方はお電話にてお問い合わせください。

日程：6月5日(火)～6月11日(月) 6泊7日

行先：浙江省

寧波・舟山諸島(普陀山)・紹興

内容：

- 1日目：成田より全日空にて上海へ
- 2日目：バスにて風情ある水郷のまち西塘へ。散策後、寧波へ
- 3日目：寧波見学（天童寺、阿育王寺等）、舟山跨海橋を渡り舟山諸島へ
- 4日目：終日、仏教4大聖地のひとつ普陀山を見学
- 5日目：寧波へ移動。寧波市内見学（天一閣など）、夕刻紹興へ移動。
- 6日目：紹興市内見学（魯迅ゆかりの三味書屋、咸亨酒店など）
- 7日目：杭州へ移動、杭州空港より成田へ帰国。

※元後楽寮生との交流夕食会は紹興または寧波にて開催予定。

参加費用： 会員 ¥195,000/1名
(2人一部屋利用の場合、
国際線燃油チャージ代別)

詳細はお問い合わせください。

【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林陽子

電話：03-3811-5305

FAX：03-3811-5263

メールアドレス：bunka@jcfc.or.jp

◆交流バスハイク

7月に予定しております。
決定次第、お知らせいたします。

◆後楽会会員向け講座のご案内

後楽会では、会員専用の2つの講座を開講しております。会員のどなたでもご参加できますので、見学や申込み希望の方は後楽会事務局までお気軽にお問合せください。

○中国気功講座



気功教室（右：森嶋みす美先生）

1500年の歴史がある中国少林寺気功法です。気の流れと代謝を整えるゆっくりした動作と呼吸を教えています。足腰が鍛えられ、いつまでも若々しい身体を保つことができます。激しい動きはなく、どなたでも楽しみながらリフレッシュできます。初心者大歓迎です。

日時：毎月2回

(第1・3木曜の午前10時～11時半頃)

費用：各回2,000円

場所：日中友好会館会議室

講師：秦 西平 先生

(嵩山少林寺第34代継承者
最高師範、後楽会会員)

森嶋 みす美 先生

(嵩山少林寺認定気功師範)

○中国水墨画講座

主に山水画や静物画を水墨で描くことを教えています。それぞれの個性を生かし、楽しくお教えます。初心者大歓迎で、道具の準備から丁寧にお教えます。お気軽にご見学にいらしてください。



水墨画教室 (中央：里燕先生)

日時：毎月2回

(第1・3木曜の午後1時～3時頃)

費用：各回2,000円

場所：日中友好会館会議室

講師：里 燕 先生

(水墨画画家、フェリス女学院大学講師)

活動記録

◆日中大学生観桜会



参加者全員で記念撮影

4月7日(土)後楽寮寮生委員会と東京中国文化センター、そして東京外国語大学京英会などの共催で「日中大学生観桜会」を行い、100名以上の後楽寮生が80名近くの日本の学生と日本の桜を鑑賞し日本文化を経験しました。

寮生委員会の組織のもと、数グループに分かれた寮生は後楽寮を出発し、六本木で日本の大学生と合流した後、花見をしながらの交流会が始まりました。港区の桜坂へ足を踏み入れた途端、皆の目の前には素晴らしい景色が現れました。一輪一輪、一枝一枝があでやかで色鮮やかな桜がまさに満開でした。日頃勉強や研究で忙しい寮生達によると、この花見は心身をリラックスさせるのにとっても良い日本文化の体験だと言っていました。

みんなは桜坂の桜を鑑賞した後、東京中国文化センターへ向かい、交流会が続きました。中国大使館教育処の白剛公使参事官がお忙しい中、会場へ来られて挨拶をされました。続いて東京中国文化センターの石軍所長からセンターの紹介や活動などのお

話がありました。



後楽寮生による演奏



千代田区観光協会のガイドを熱心に聞く寮生達

そして、寮生と日本の大学生の歌や楽器演奏などの出し物を行ったあと、立食パーティーで引き続き交流を行いました。

この交流を通じて後楽寮の留学生は素晴らしい日本の桜を鑑賞し、沢山の日本の友達と交流することができました。寮生は日本の文化を体験、日本の学生は中国の文化を体験することができ、日中友好交流の良い関係を築けたのではないかと思います。

(後楽寮寮生委員会)

◆千代田区日中友好協会との花見交流会

4月8日(日)千代田区日中友好協会主催の「中国留学生と交流するお花見と千代田観光スポットを散策する会」が行われました。昨年は東日本大震災により中止となったので、2年ぶりの花見交流会です。

後楽寮からは21名の寮生が参加し、千代田区議会議員や千代田区観光協会の方々と昼食を兼ねた交流会の後、皇居周辺や千鳥ヶ淵を訪れ観光協会スタッフの流暢な中国語による観光スポットの説明があり、寮生は熱心に話を聞いたり質問をしたりしていました。

当日は好天と満開の桜に恵まれ、寮生達は千代田区日中友好の会員と記念写真を撮ったり桜の写真を撮影したりと充実した春の一日を過ごしました。(留学生事業部)

◆平成23年度日中次世代幹部交流訪日団第2陣が来日

「金融」をテーマに講義・視察に参加

2012年3月18日から24日の日程で、平成23年度日中次世代幹部交流訪日団第2陣金融視察団(団長=閻慶民・中国銀行業監督管理委員会主席助理)が来日した。本団招聘事業は、平成19年度より、外務省が推進している「21世紀東アジア青少年大交流計画(日中21世紀交流事業)」に平成22年度より700名の交流拡大が決定され、そのうちの1分野として当財団が外務省から委託を受け実施したものである。

一行は中国の中央・地方の金融行政関係者、銀行、県・市レベルの地方政府の中堅幹部で構成された128名で、東京のほか、大阪、京都を訪問した。各地で金融にかか

る講義や視察のほか、日本の経済、社会、科学技術、歴史、文化に関する参観等、さまざまなプログラムを通じて、包括的な対日理解を深めた。

3月19日には、訪日団の歓迎レセプションが開催され、新美潤外務省アジア大洋州局参事官や李纓中華人民共和国駐日本国大使館公使参事官、交流先の関係者らが出席し、盛大に行われた。中国の次世代を担う幹部多数の来日に、新美参事官より今回の訪日で日本の金融をめぐる状況と取り組みを学び、将来における両国の友好関係を深めて欲しいと期待が述べられた。

閻慶民団長はじめ代表者は東京と大阪で、中野譲外務大臣政務官、大矢俊雄金融庁金融国際政策参事官、宮川正中小企業庁次長、日本生命保険相互会社をそれぞれ表敬訪問した。



中野譲外務大臣政務官（右）を表敬訪問した閻慶民団長（左）

金融関係機関のブリーフに参加

一行は今回の訪日テーマである「金融イノベーション及びリスク防止」に基づき、財務省、金融庁、日本銀行、環境省、三菱東京UFJ銀行、大阪府によるブリーフに参

加したほか、金融施設の視察を行った。



日本銀行ブリーフで外貨準備高について質問する団員

財務省からは「日中を中心とした東アジアの国際金融」をテーマに、日中両国の金融市場の発展に向けた相互協力措置や、国際金融危機下で進展するアジア地域の金融協力強化の各種取り組みが紹介された。また「東日本大震災後の主な対応」をテーマとして、金融庁から、震災発生直後に金融機関へ要請した特例措置と円滑な資金供給や二重債務問題の対応など復興段階の措置が紹介された。質疑応答では民間金融機関へ要請したさまざまな金融優遇策とリスク回避のバランスを如何にとるか、地震保険の効果はあるか、同災害保険に対し政府の新たな考えはあるかなど、多くの質問が挙がり、自然災害の多い日本の金融上の危機管理体制や対策措置等への団員の関心の高さがうかがえた。日本銀行からは「日本銀行の組織と機能」のほか、震災後の損傷銀行券の対応等が紹介された。

さらに、環境省から「環境と金融の在り方～低炭素社会に向けた金融の新たな役割～」と「排出権取引」、三菱東京UFJ銀行から「日本の金融業界の現状と東日本大震災

への対応」、大阪府商工労働部金融支援課から「大阪府の中小企業に対する金融支援」をテーマとしたブリーフを受けた。いずれも中国側の関心テーマに基づいた内容で、近年注目される環境保全と経済発展の矛盾に対する環境金融の役割や、郵政民営化など「官から民へ」を目指す日本の金融制度改革や民間金融機関の経営指針、行政による中小企業への融資面での支援策など、さまざまな視点から日本の金融界のリスク回避の仕組みが紹介され、金融行政で中国经济を支える団員一同は熱心に聞き入っていた。また、東京証券取引所、造幣局といった金融施設を訪問視察した。

訪日団は、このほか、東京で目黒区地震の学習館、日本科学未来館、京都では金閣寺、渡月橋と嵐山公園周総理記念碑を参観し、日本の防災や科学技術、歴史、文化を体感した。

3月23日に行われた歓送報告会では、団員代表が訪日を通しての日本に対する印象や専門交流における感想を述べるとともに、閻団長が本団の目的を造幣局で展示されていた桐花紋の三枚の葉に例え「学習・生活・友情の旅」だったと述べ、今後も両国間の青少年間の交流を通じ政治や経済の面でも友好関係を深めていきたいと訪日の成果を総括した。

訪日団は全てのプログラムを終了し、3月24日に関西空港より帰国の途についた。本団の受け入れにご協力下さった外務省及び中国大使館、受け入れ関係機関・企業・団体等の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

◆平成23年度日本高校生訪中代表团
第4陣が訪中
北京・四川省(成都)・上海で交流



世界文化遺産 故宮博物院をバックに

平成23年度日本高校生訪中代表团第4陣(団長=渡辺英司・神奈川県立神奈川総合産業高等学校校長、副団長=嶋田麻知代・愛知県教育委員会高等学校教育課課長補佐、一行計101名)が、2012年3月20日から3月26日の日程で訪中した。中国日本友好協会が受け入れを担当し、日本側派遣実施を当財団が担当した。当財団の王昆中国代表常任理事が団顧問として活動に参加した。

本代表团には、神奈川県と愛知県の高校生が参加し、北京市、四川省、上海市を訪問し、学校交流やホームステイのほか、万里の長城、故宮博物院等の歴史遺跡の見学を行った。参加した高校生は、交流を通じて現地の高校生らと親睦を深めるとともに、悠久の歴史と経済発展著しい中国の現状について理解を深めた。

本代表团は3月20日に北京より入国。21日は午前中に万里の長城を見学した後、午後には北京市第十九中学を訪問した。歓迎

セレモニーに続き、3 グループに分かれて授業に参加した。美術の授業では日中高校生がペアになって「切り絵」を作成し、出来上がった作品がプレゼントされた。心理の授業は日中高校生が混合チームを作り「ジェンガ」ゲームを行った。授業の後はキャンパスツアーや集合写真の撮影、学校を出発するまでの短い時間も、バスケットをするなどして積極的に交流した。

同日夜には、中国日本友好協会主催の歓迎宴に参加。井頓泉副会長より東日本大震災へのお見舞いと代表団歓迎の言葉が述べられ、渡辺団長からは「日中国交正常化40周年という記念すべき年に、貴国を訪問できることを大変喜ばしく思います」と述べるとともに、訪中活動への熱い期待が示された。

22日は午前中に天安門広場と故宫博物院を見学し、昼食に名物料理北京ダックを味わったあと、四川省成都市へ移動した。翌23日は、午前中に成都パンダ基地を見学した後、午後にはそれぞれ四川省成都列五中学、四川師範大学実験外国語学校、成都外国語学校を訪問した。ホスト生徒や学校関係者から熱烈歓迎を受けた日本高校生は、各学校で英語や漢詩の授業、ホームルームなどを体験してから、迎えに来たホストファミリーの車で学校を後にした。

25日朝、2泊3日のホームステイを終えて学校に集合。どのペアもすっかり打ち解けた様子で、写真を撮ったり連絡先を交換したりしていたが、いざ別れの時が近づくと抱き合っただけ涙を流しながら別れを惜しんだ。再会を誓う言葉があちこちで聞かれ、短い時間ながらお互いの中にしっかりと友情がはぐくまれたことがうかがえた。

学校を後にして空路上海へ移動し、夜は歓送会に出席した。関立形中国日本友好協会秘書長が北京からかけつけ、歓送の言葉が贈られた。神奈川、愛知両県の生徒代表からは「言葉は通じなくても心は通じた。ホストファミリーとの別れの時には涙があふれた」、「日本に帰国してからの自分達の役割は、できるだけ多くの人にこの経験を伝えること」との感想が発表され、各県高校生が「同一首歌」と「ドラえもん」を合唱して受け入れへの感謝の気持ちを表した。



四川師範大学実験外国語学校で
ホストファミリーのお祖母ちゃんとお別れ

3月26日、全日程を終了し、一行は無事に帰国の途に就いた。訪中に参加した高校生からは、「ホームステイの最初は不安だったが、ずっと手をつないでいるうちに心と心で通じ合えた」、「中国の人々はとても温厚で心優しく、英語がとても上手だった。中国の素晴らしさ、人々の温かさを伝えたい」、「どこを見ても日本が負けている気がして悔しかった。今の日本をもっともっとよくしたい」といった感想が聞かれ、訪中を通じてそれぞれが大きく成長したことがうかがえた。

最後に、今回の訪中団実施にあたり、ご

指導ご協力いただいた関係者の皆様に厚く
お礼申し上げます。(総合交流部)

附 録

◆日中国民交流友好年によせて
—「草の根活動を日中共同で展開」
日中友好会館会長 江田五月

経団連の米倉弘昌会長には、今年の日中国交正常化40周年に際し、「日中国民交流友好年」実行委員長としてご奮闘いただき、心から敬意を表し感謝申し上げます。日中友好会館は友好7団体の一つであり、実行委員会には私も、会館の会長として顧問に名を連ねている。最大限の協力をしていきたい。

2月16日に北京において、「日中国民交流友好年」と「活力日本」展示会の日本側開幕式が開催され、米倉実行委員長、直嶋政府特使とともに、友好7団体の会長・理事長が全員揃って出席した。さらに、中日民間団体責任者会議や全国政治協商会議の賈慶林主席との会見なども順調に進み、素晴らしい交流友好年のキックオフとなった。

1982年に日中双方の首脳間で中国人留学生のための宿泊施設の建設が合意され、83年に日中友好会館が交流の拠点として活動を開始した。友好7団体の中では一番若い団体だが、両国政府の合意による事業であることが特徴だ。

現在の主たる活動を上げる。

- ① 中国人留学生の宿舎「後楽寮」の運営。
238室あり、巣立った人材総数は4千人近くに上る。
- ② 日中間の青少年交流活動。高校生や青年幹部の相互訪問は最近5年間で2万

人を超え、今年は特に東日本大震災被災地との交流活動を強化したい。

- ③ 日本人に中国語を、中国人に日本語を教える学校「日中学院」の経営。1951年に創設され、中国語受講生は累計約3万人となり、日本語受講の中国人学生は5百人を超えた。
- ④ 中国現代文化を紹介する文化事業。会館一階の美術館では毎年20回以上の展示会が行われて中国の絵画、書道、民間工芸などを紹介しており、地下の多機能ホールでも多様なイベントを開催している。

日中友好会館は今般の法人改革に伴い、「日中国民交流友好年」に合わせて、4月1日から公益財団法人として新しいスタートを切ることとなった。関係者一同心を合わせて、今まで以上に草の根活動を拡げ、両国民間の相互理解と友好親善の促進のために努力する決意だ。皆さんの一層のご指導、ご鞭撻をお願いする。

日中両国は2012年、国交正常化40周年を迎えます。2011年12月の日中首脳会談では、2012年を「日中国民交流友好年」とし、「新たな出会い、心の絆」というキャッチフレーズのもと、両国民の友好の絆を一層深める年とすることで一致しました。これを記念し、交流拡大と相互理解の促進を目的として、さまざまな行事が実施される予定です。

「日中国民交流友好年」実行委員会の顧問を務める江田五月会長が、『月刊経団連』に寄稿されましたので、ここに転載いたします。

◆ 「日中を結ぶ蘭」

村上立躬

毎年2月末が近づくと日中友好会館玄関ロビーに清々しい中国蘭の香りが漂う。

ロビーに面した会館美術館で「中国奥地の蘭展」が開催され厳選された百余鉢が展示されているからです。

中国奥地（雲南省、貴州省、四川省とその周辺地域）の蘭は優美な葉形と花茎の姿と上品な香りが特色で良く似合った鉢と一体化して人々を魅了します。その愛好者の集まりが「中国奥地の蘭協会」で1998年松村正直氏（1909-2007）（松村謙三先生のご子息で三菱倉庫株 元社長）を初代会長として発足。松村謙三先生は1959年に古井喜実（当会館初代会長1903-1995）、田川誠一等の諸氏を伴って訪中し、日中国交正常化の途を開いた方ですが中国蘭の愛好家でもあり、周総理の手配で中国各地を歴訪し、その際「中国奥地の蘭」数種類を招来されこれを契機に日本での愛培が始まりました（周総理、朱徳元師からも寄贈された）。松村謙三先生は度々中国奥地を訪問され、新種の蒐集に努められ、お手許で500余の鉢を愛培されていました。

1963年、松村謙三先生の呼びかけで中国から孫平化先生を団長格とする蘭花代表団が来日し、蘭花での交流の一方で日中総合貿易覚書（LT貿易）実効化が進められ、蘭花は当時、外交関係のない日本と中国の架橋の役割も果たしたのです。

中国奥地の蘭協会は1989年6月に発足しました。その協会の目的は中国奥地の蘭を愛培・普及を目指し、日中友好の更なる進

展を希求した活動を展開されていますが、松村正直、中村彌豫二、加藤昌孝、杉澤達也の歴代会長のご尽力で会館美術館での展示会は2012年で第19回を迎えました。

例年2月、東京ドームで「世界らん展」が開催され、同会は第一回から参加していましたが、中国蘭の適温18度よりかなり高温で不向きなので、中国蘭に好ましく、また日中友好を希求する同協会にふさわしい会場を探していた処、旧知の古井先生が会長を務める日中友好会館の美術館が最適ということになり、古井先生・松村初代会長の懇談の結果、同会の展示会場として会館の美術館が定められました。



展覧会の様子

中国奥地の蘭協会展では初回から難波清邱先生とご関係の方々の書が展示されていますが、古くから日中において書画と蘭との関係が深く一体となって鑑賞されてきた歴史があり、この展覧会の雅趣を高めています。

今では会館の有力な年中行事の一つとなり、愛好者はじめ一般の方々にも楽しんでいただいております。来年は是非お立ち寄りください。

※なお、同協会展示会は従前タキイ種苗(株)東京支店、第18回は東京中国文化センター

で開催。

会館行事と人の動き 3/1～31

● 会館行事

- 3/ 1□ 後楽会気功・中国画教室
- 3/ 2□ 中国社会科学院青年研究者代表团第3陣 歓送報告会
- 3/ 5□ 「日中友好岸関子賞」調印式
- 3/12□ 日中韓青年交流訪日団歓迎レセプション
- 3/15□ 後楽会中国画教室
 - 後楽寮運営委員会
 - 日中学院卒業式
- 3/18～3/24□ 日中次世代幹部交流訪日団第2陣 来日 (3/19同団歓迎レセプション、3/23歓送報告会)
- 3/20～3/25□ 中国当代名家作品5人展 (3/21開幕式)
- 3/20～3/26□ 日本高校生訪中代表团第4陣 訪中
- 3/21□ 「日中友好岸関子賞」選考委員会
 - 内閣府公益認定等委員会 馬場真一郎参事官補佐、認定書交付
- 3/26□ 第77回理事会
 - 第21回観桜会 (小石川後楽園涵徳亭)
- 3/27～4/1□ 回顧中国・辛亥革命100周年記念総合美術作品展 (3/27開幕式)
- 3/30□ 文化事業部諮問委員会

● 来館・訪問・面会

- 3/ 2□ 京都府山田啓二知事往訪 (村上理事長他)
 - 中青旅日本(株) 関代表取締役社長来館 (王理事)
- 3/ 3□ 大阪総領事館 劉毅仁総領事との懇親会 (村上理事長、王理事他)
- 3/ 5□ 無錫市場名小学校吹奏楽団表敬訪問、懇親昼食会 (谷野副会長、村上理事長他)
- 3/ 8□ 大樹総研 松田学氏来館、昼食会 (村上理事長他)
- 3/ 9□ 中国国家行政学院研究生部 郭曉来主任他来館、懇親会 (谷野副会長、武田常務理事他)
- 3/12□ 後藤田正純衆院議員来館 (村上理事長他)
 - 中国奥地の蘭協会 杉沢代表来館 (村上理事長他)
- 3/14□ 岩手県復興物産展 鈴木宏延代表往訪 (村上理事長)
 - 国際書画交流展訪日団来館 (村上理事長他)
- 3/16□ (社)日中友好協会 村岡理事長来館 (武田常務理事)
- 3/22□ 中国社会科学院日本研究所 孫新書記来館 (村上理事長他)
- 3/29□ 中国大使館政治部 律桂軍参事官来館 (村上理事長、武田常務理事他)
- 3/30□ 林芳正議員、後藤田正純議員との会食 (村上理事長、武田常務理事)

● 行事参加、その他の活動

- 3/ 1～3/2□ 日本文化体験活動 (後楽寮寮生)
- 3/ 2□ 京都府商工労働観光部 三田村康明副部長講演会 (村上理事長他)
- 3/ 7□ 麻布楓林見学、懇親夕食会 (村上理事長他)
- 3/21□ 日中国交正常化40周年記念友連画院美術作品展開幕式 (村上理事長他)
 - 清華大学シンポジウム (留学生事業部)